

2020年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社
Chief Accounting and Financial Officer
武藤 直樹

2019年11月7日

CAFOの武藤でございます。

2020年3月期 上期決算の概要について説明いたします。

売上・利益ともに上期として過去最高

(億円)

	18年度上期	19年度上期	増減率	為替除く 増減率
売上収益	2,850	3,073	+8%	+11%
売上総利益	1,546 (54.2%)	1,715 (55.8%)	+11%	+14%
一般管理費	870 (30.5%)	896 (29.2%)	+3%	+6%
研究開発費	238 (8.3%)	243 (7.9%)	+2%	+5%
その他収益費用	37	16	-	-
営業利益	476 (16.7%)	592 (19.2%)	+24%	+29%
調整後営業利益	553 (19.4%)	670 (21.8%)	+21%	+27%
税引前利益	445 (15.6%)	581 (18.9%)	+30%	
当期利益	345 (12.1%)	457 (14.9%)	+33%	

期中平均レート	USD	110円	109円
	EUR	130円	121円

- 売上収益 : 全カンパニーがプラス伸長。TISが全地域で二桁伸長し全体を牽引
- 調整後営業利益 : 高収益品の販売増。心臓血管において遅めの費用進捗
- 税引前利益 : 前年同期の為替差損28億円に対し、今年度は差損11億円と縮小



2/21

初めに全体総括です。

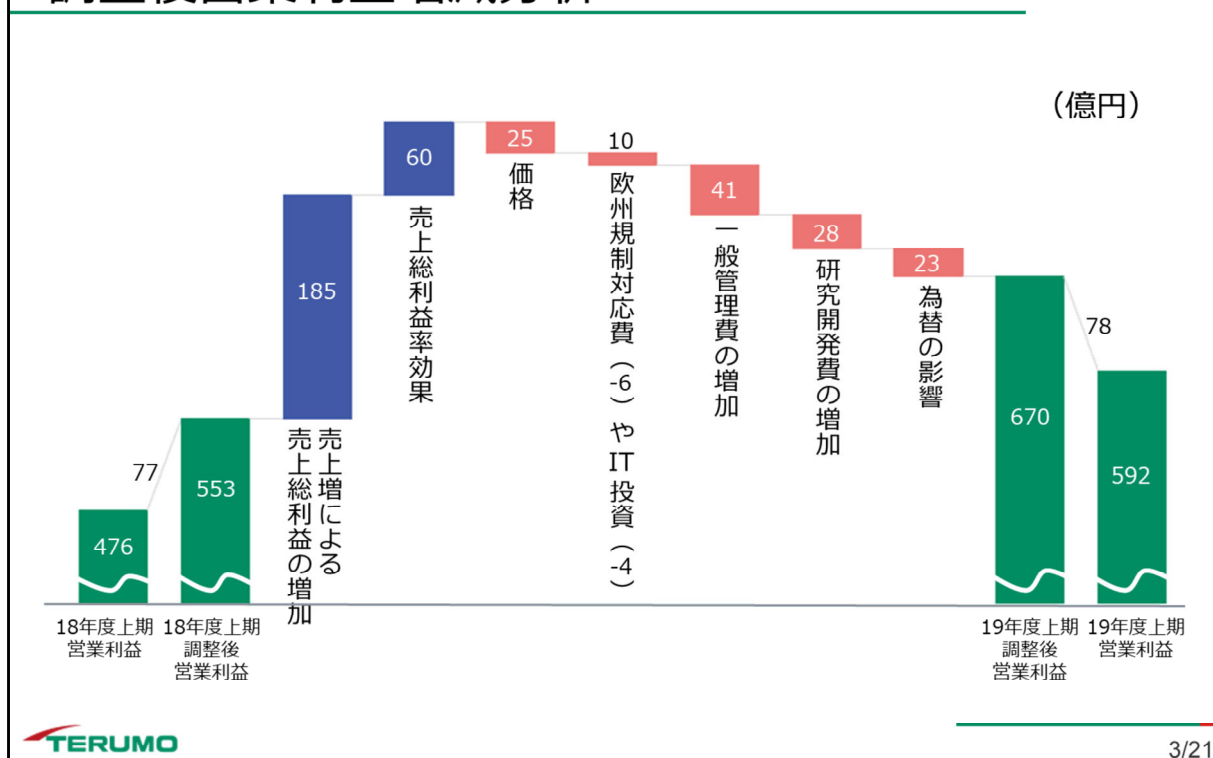
売上収益は、3カンパニー全てがプラス伸長、中でも心臓血管のTIS事業が全ての地域で二桁伸長し、グループ全体を牽引した結果、8%伸長となりました。

調整後営業利益は、グループ全般として高収益品が大きく伸長したことに加え、心臓血管における費用、特に販促費が遅めに進捗したこともあり、21%増と大幅増益となりました。

税引前利益においては、前年同期比で、為替差損が大きく縮小したため、30%の増益となりました。

上期業績としては、売上収益、そして全ての利益項目において過去最高となりました。

調整後営業利益増減分析



前年同期比での調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」は、通期ガイダンスの330億円と比較し、185億円と早めの進捗ではありますが、昨年度は愛鷹工場の出荷遅延の影響で、特に第2四半期の売上が低くなっておりましたので、これは計画通りの増加進捗です。

「売上総利益率効果」の60億円は、通期ガイダンスの48億円を上回りました。心臓血管カンパニーの売上好調による事業ミックス改善に加え、生産のコストダウンが想定以上に進んだ結果であり、上期ガイダンスの上振れに大きく貢献しました。

「価格下落」は、公定価改定の影響は上期にはなく、通期ガイダンスのプラス50億円に対し、計画どおりの進捗です。

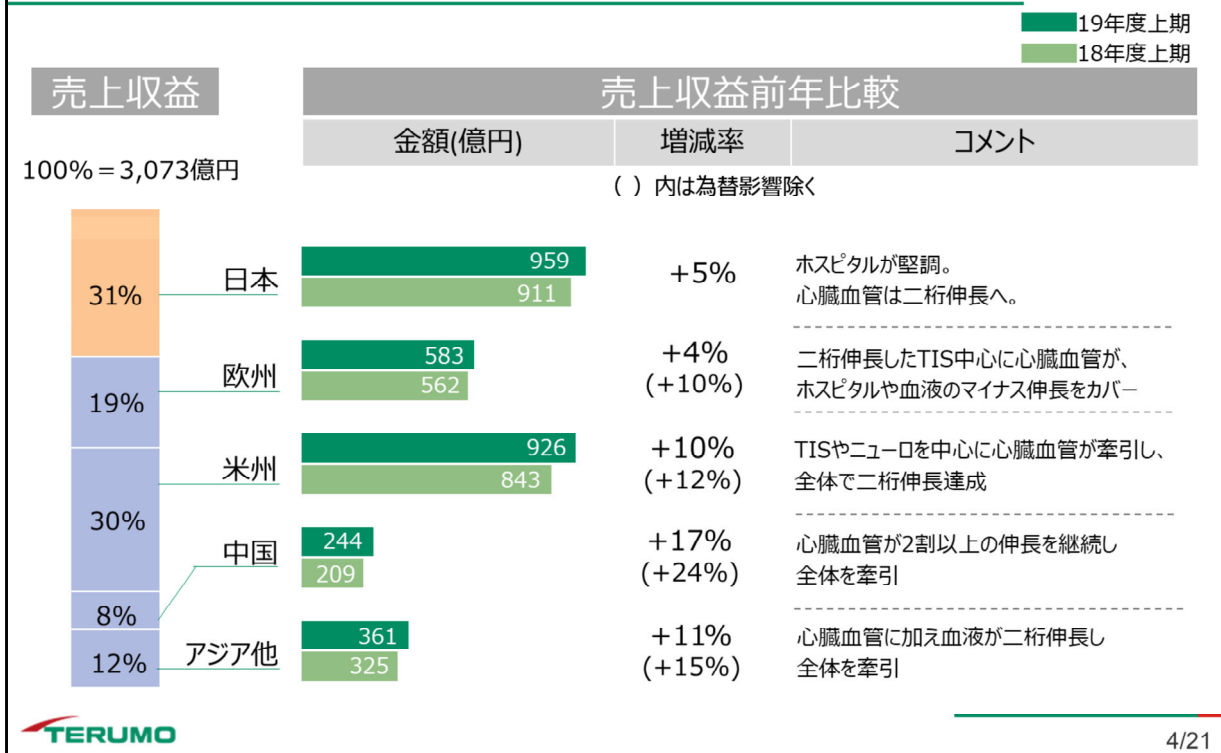
「欧州規制対応費」は、6億円と通期ガイダンスの32億円と比較し進捗が遅れており、こちらも上期上振れに一部貢献しておりますが、作業は順調に進行しており、費用も下期にキャッチアップするものとみています。

「一般管理費の増加」は、通期ガイダンスの125億円と比べ、41億円と進捗が遅く、こちらも上期上振れに貢献しています。未消化費用の一部は、売上好調を背景に今後も使用しない可能性もありますが、多くは下期にキャッチアップするものと考えています。

「研究開発費」の28億円は、通期ガイダンスの57億円に対し計画どおりの進捗です。

「為替」は、全体として概ねガイダンス通りの影響額となりました。

地域別売上収益

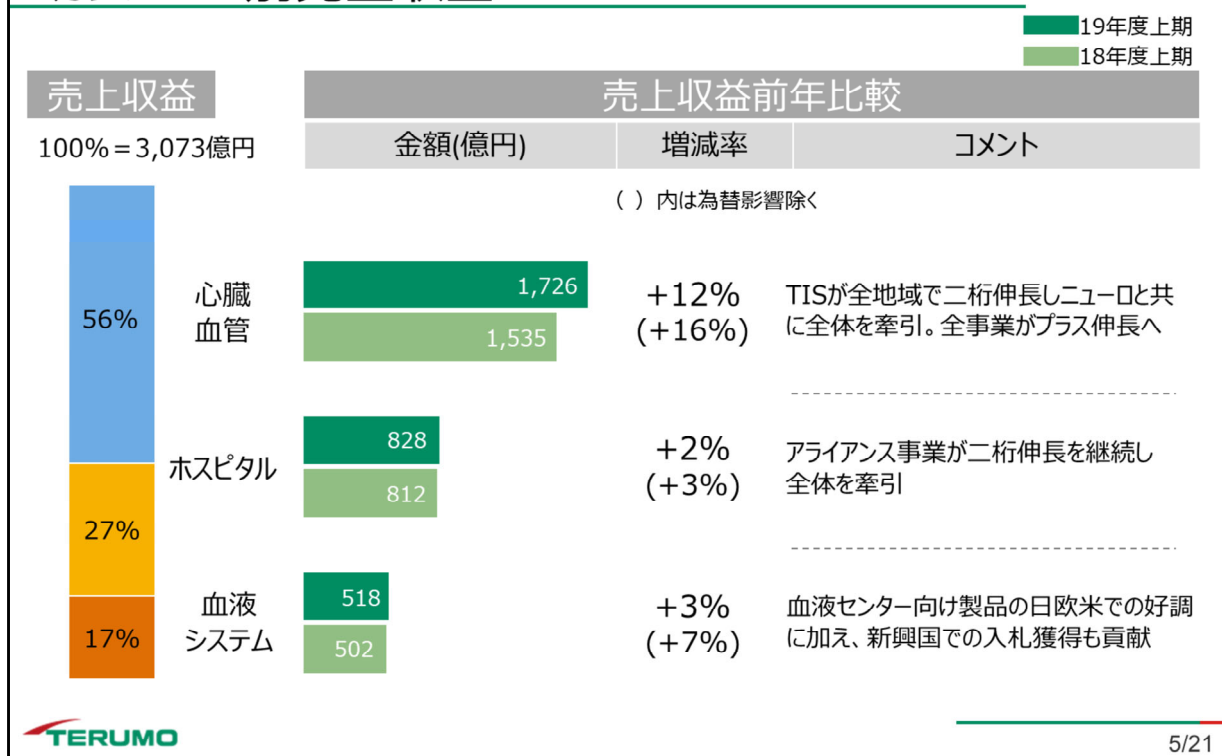


地域別売上収益です。

日本では、大部分を占めるホスピタルが堅調に推移したほか、心臓血管が二桁伸長し、5%伸長となりました。

海外は、全ての地域において、為替影響を除くベースで二桁伸長となりました。

カンパニー別売上収益



カンパニー別売上収益です。

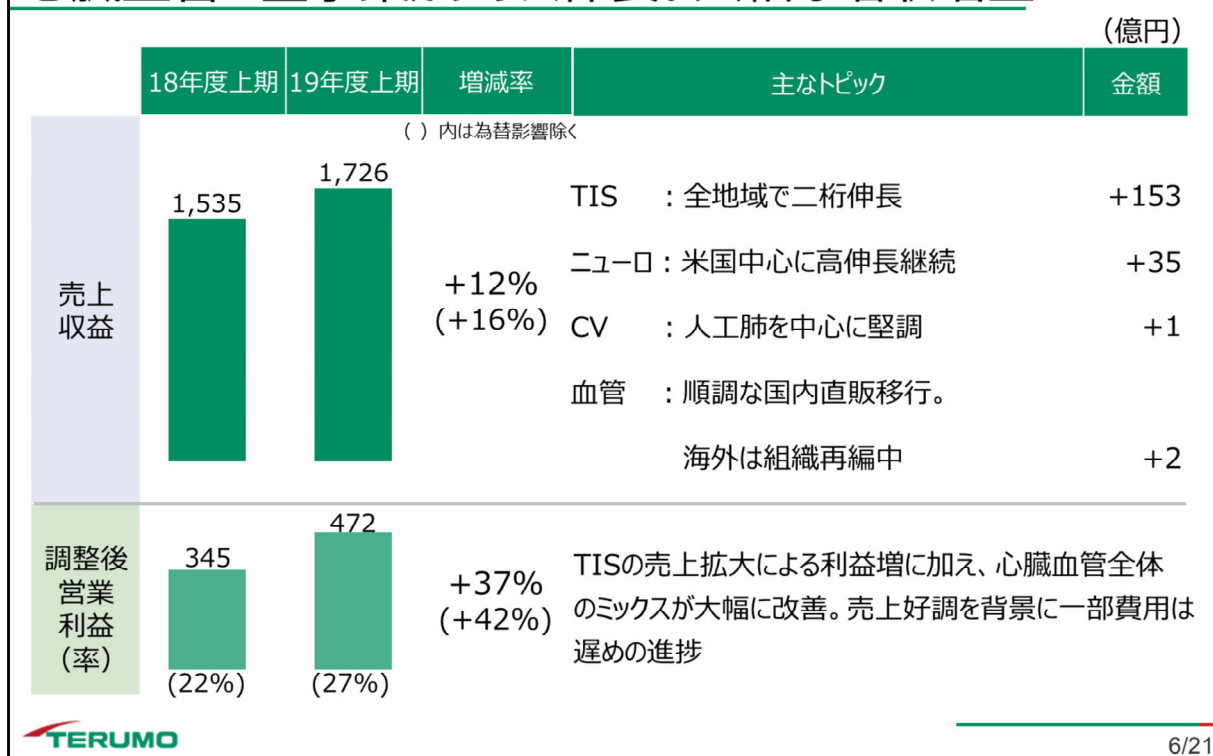
心臓血管は、全ての地域で二桁伸長したTISにくわえニューロ事業が全体を牽引しました。

ホスピタルは、引き続きアライアンス事業が二桁伸長し、全体として堅調です。

血液システムは、血液センター向け製品群が先進国で好調に推移したことに加え、新興国における大型入札の獲得も寄与し、為替の影響を強く受けながらも、プラス伸長に転じました。

次のスライドより、カンパニー別に詳しくお話致します。

心臓血管：全事業がプラス伸長。大幅な増収増益



心臓血管カンパニーです。

売上収益は、為替の影響を受けながらも12%伸長となりました。

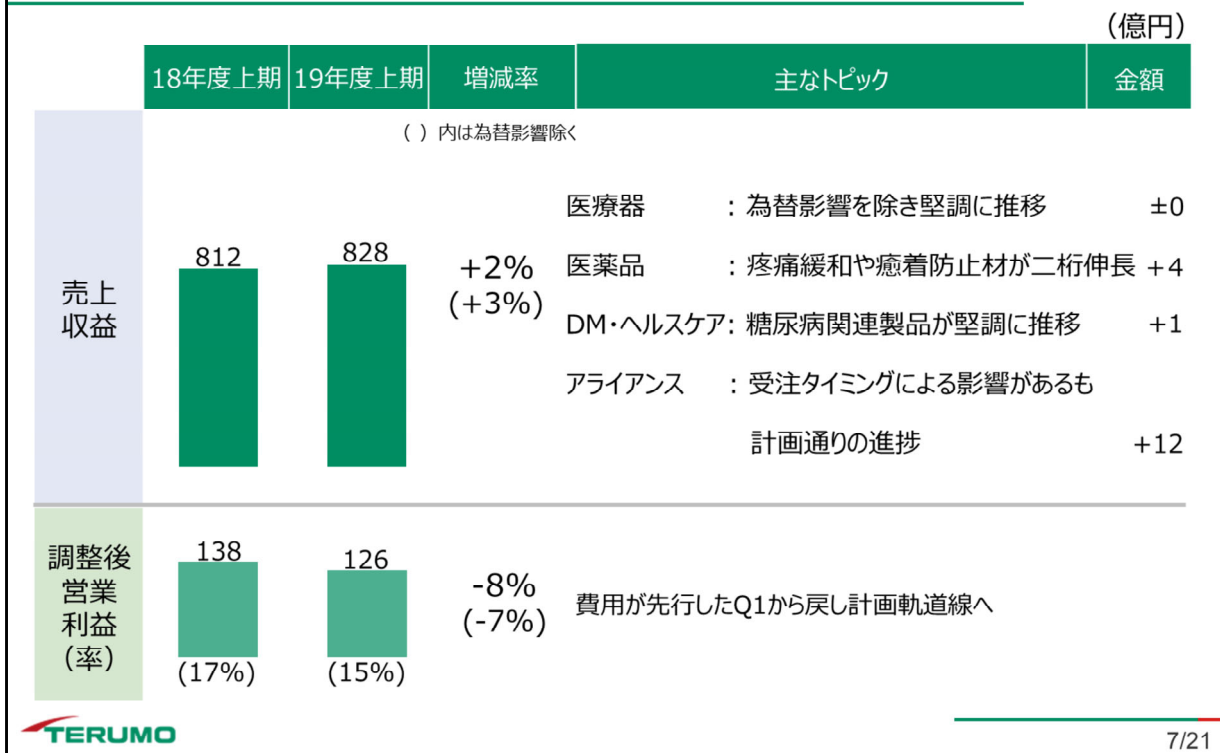
TISは、全ての地域で二桁伸長し、全体を牽引しました。

ニューロは、新製品WEBを展開している米国を中心に、好調を維持しています。

CVや血管を含め全ての事業がプラス伸長となりました。

利益については、収益性の高いTISやニューロの売上拡大に加えてカンパニー全体のミックス改善が貢献しています。TISやニューロにおける売上の好調を背景に、一部予定していた費用が出ずに済んでいることも寄与し、前年同期比37%増となりました。下期には公定価改定の影響に加え、上期に未消化の費用もあることから、通期ガイダンスに徐々に近づいてくると思います。

ホスピタル: 売上・利益ともに計画通りの進捗

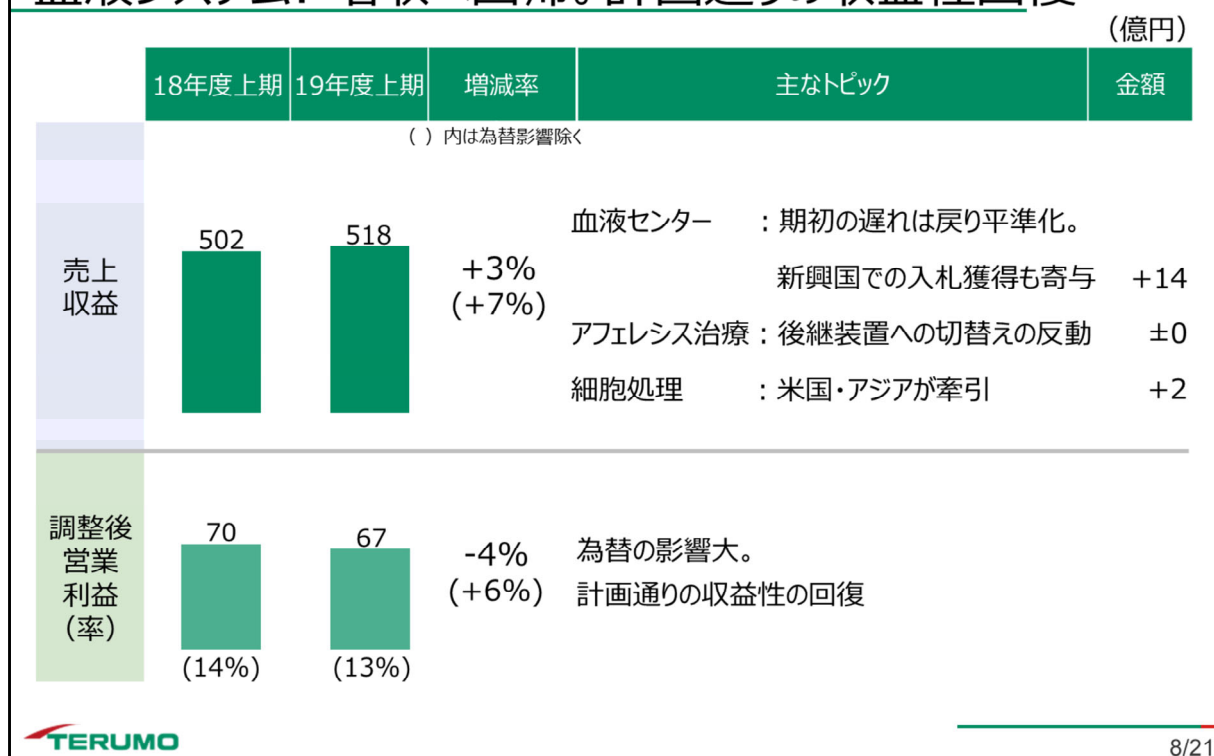


ホスピタルカンパニーは、売上・利益ともに計画通りの進捗となりました。

売上収益は、医療器に加え、医薬品やDMが堅調に推移したほか、アライアンスは製薬企業からの受注タイミングの影響で第1四半期と比較しますと第2四半期は伸びが鈍化しましたが、全般に計画通りの進捗となりました。

利益については、第1四半期で費用が先行しましたが、上期では計画線へ戻ってきました。また、調整後営業利益率も通期ガイダンスの15%まで向上しています。

血液システム：増収へ回帰。計画通りの収益性回復



血液システムカンパニーです。

売上収益は、昨年度末からの反動で弱めのスタートを切った血液センター向け製品が、第2四半期で回復したほか、新興国における入札獲得も寄与したことで全体を牽引し、カンパニー全体として増収に回帰しました。

利益は、為替の影響を大きく受けて減益ではありますが、計画どおりの収益性の回復となっております。

上期利益の上振れ要因と下期のリスク要因

- 上期利益の上振れの主な要因
 - TISおよびニューロの売上増によるミックス改善と両事業の生産コストダウン
 - 欧州規制対応費用の期ズレ
 - 一般管理費の進捗遅れ
 - ✓ 販促費の期ズレ：心臓血管（市販後スタディ、拡販プロモーション、他）
 - ✓ 販売好調を背景に不支出：ニューロWEBの米ローンチ、TISの市場シェア回復
- 下期のリスク要因
 - 売上：為替影響、消費増税前の駆け込み需要の反動
 - 利益：欧州規制対応費など
- 現時点でガイダンス修正は行わないが、上期のモメンタムを維持し、通期ガイダンスの上振れを目指す



9/21

ここで、上期利益の上振れ要因と下期のリスク要因を整理します。

まず上期利益の上振れ要因です。TISとニューロの売上拡大によるミックス改善に加え、ニューロのコスタリカ工場への生産移管によるコスト改善が想定以上に進んだことが貢献しています。下期においては、前年度のハードルが高い為、ガイダンス以上のミックス改善は容易ではありませんが、生産のコストダウンには一定レベルの貢献を期待したいと思います。

欧州規制対応費用は、上期に期ズレがありましたが、作業が下期に本格化することで、支払いも進み、通期ガイダンスどおりになると見込んでおります。

一般管理費においては、心臓血管におけるスタディやプロモーション費用などに下期への期ズレが生じましたが、これらは通期で消化されます。一方、ニューロ事業における新製品「WEB」の米国ローンチにかかる立上げ費用や、TISにおける昨年の出荷遅延の回復を目したプロモーション費用などは、売上が想定以上に良いことから上期は支出せずに済みました。下期にも好調なモメンタムが続く限りにおいては、こうした費用を使わない可能性はあると考えています。

下期のリスク要因を整理します。売上は、元々計画の設定として下期が重く、一部の製品においては消費増税前の駆け込み需要の反動が予想される為、不透明さが残ります。利益においては、先ほど説明した費用発生にくわえ、9月末時点での円高レベルが続いた場合、通期ガイダンス以上のネガティブな為替影響も想定されます。

従い、現時点では通期ガイダンスの修正は行いませんが、上期のモメンタムを維持し、通期ガイダンスの上振れを目指します。

主なトピックス

- テルモの日本初「使い切り注射器」が「未来技術遺産」に登録(9月)



全社

- 米国ベンチャーキャピタル 2 社のファンドに参画(8月)
- 「テレワーク・デイズ2019」に特別協力団体として参加。本社地区で推進(7月)

- 手首からの治療をサポートする末梢動脈疾患用ステント「Misago (R2Pシステム)」を米国で発売(9月)



事業

- テルモ山口D&D株式会社の薬剤充填済み注射器の生産設備増設を決定(9月)
- 「PLAJEX」で受託製造する骨粗鬆症治療剤が製造販売承認を取得(9月)
- 鎮痛剤の「フェンタニル注射液」を発売(9月)
- ベルギーの生産設備(アライアンス、TIS)に2600万ユーロの投資を決定(7月)



10/21

主なトピックスです。

全社のトピックスとしては、米国のベンチャーキャピタル2社のファンドに参画することを決定しました。スタートアップに特化したファンドへの投資と機能支援を通じて、製品開発と商業化を促進します。

事業においては、アライアンスにおける受託製造品の承認や、生産設備増設など、事業拡大のスピードアップに関するトピックがありました。

19年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタラジアル用止血デバイス	日		医療器	次期シリンジポンプ	日	
心臓	PTCAバルーン	欧亜	済み	医薬品	麻酔用鎮痛剤（フェンタニル注射液）	日	済み
ペリフェラル	ステント（TRI）	日米	済み		癒着防止材（アドスプレー・ミニ）	日	済み
脳	袋状塞栓デバイス（WEB）	米	済み	DM・ヘルスケア	持続血糖測定器	日	済み
	中間カテーテル（Sofia EX）	欧米			血糖測定システム	日	
	ミニ・バルーン	欧米			パッチ式インスリンポンプ	日	済み
	血栓吸引カテーテル	日	済み		次期血圧計	日	
	ステントリバー	日	済み		次期体温計	日	
CV	次世代人工肺	日		血液	細胞治療用充填・仕上げシステム（FINIA）	グローバル	済み
	人工心肺装置（再出荷）	日					
血管	大口径人工血管（トリプレックス・アドバンスト）	日					



11/21

今年度のパイプライン製品はご覧の通りです。今のところ想定通りに製品ローンチが進んでおります。

説明は以上です。

参考資料

19年度上期 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	248 (+11%)	1,479 (+17%)	422 (+14%)	672 (+15%)	205 (+27%)	180 (+23%)	1,726 (+16%)
うちカテーテル※	187 (+11%)	1,223 (+21%)	344 (+17%)	537 (+20%)	191 (+28%)	150 (+26%)	1,409 (+20%)
ホスピタル	650 (+3%)	178 (+0%)	43 (+1%)	41 (+5%)	12 (+6%)	82 (-4%)	828 (+3%)
血液システム	61 (+5%)	457 (+8%)	118 (+2%)	213 (+6%)	27 (+8%)	99 (+20%)	518 (+7%)
合計	959 (+5%)	2,114 (+13%)	583 (+10%)	926 (+12%)	244 (+24%)	361 (+15%)	3,073 (+11%)

※ニューロバスキュラー事業含む

() 内は為替影響除前年比伸長率



販管費

(億円)

	18年度上期	19年度上期	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	433	440	+7	+2%	+5%
販促費	87	95	+8	+9%	+12%
物流費	66	68	+3	+4%	+7%
償却費	69	91*	+22	+32%	+34%
その他	216	203*	-13	-6%	-4%
一般管理費計	870 (30.5%)	896 (29.2%)	+26	+3%	+6%
研究開発費	238 (8.3%)	243 (7.9%)	+6	+2%	+5%
販管費合計	1,107 (38.8%)	1,139 (37.1%)	+32	+3%	+6%

*償却費とその他において、IFRS16号（リース会計）により組み替え



四半期の動き

(億円)

	18年度Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	19年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上収益	1,420	1,586	1,559	1,525	1,548
売上総利益	747 (52.6%)	876 (55.2%)	843 (54.1%)	852 (55.8%)	863 (55.8%)
一般管理費	435 (30.5%)	450 (28.4%)	467 (29.9%)	445 (29.2%)	451 (29.1%)
研究開発費	124 (8.8%)	123 (7.7%)	116 (7.5%)	118 (7.8%)	125 (8.1%)
その他収益費用	29	6	21	4	13
営業利益	217 (15.3%)	309 (19.5%)	282 (18.1%)	292 (19.1%)	300 (19.4%)
調整後営業利益	248 (17.4%)	359 (22.6%)	309 (19.9%)	339 (22.3%)	331 (21.4%)

四半期	USD	111円	113円	110円	110円	107円
平均レート	EUR	130円	129円	125円	123円	119円

 TERUMO

15/21

調整後営業利益：調整額

(億円)

	18年度上期	19年度上期
営業利益	476	592
調整① 買収無形資産の償却費	+75	+78
調整② 一時的な損益	+2	+0*
調整後営業利益	553	670

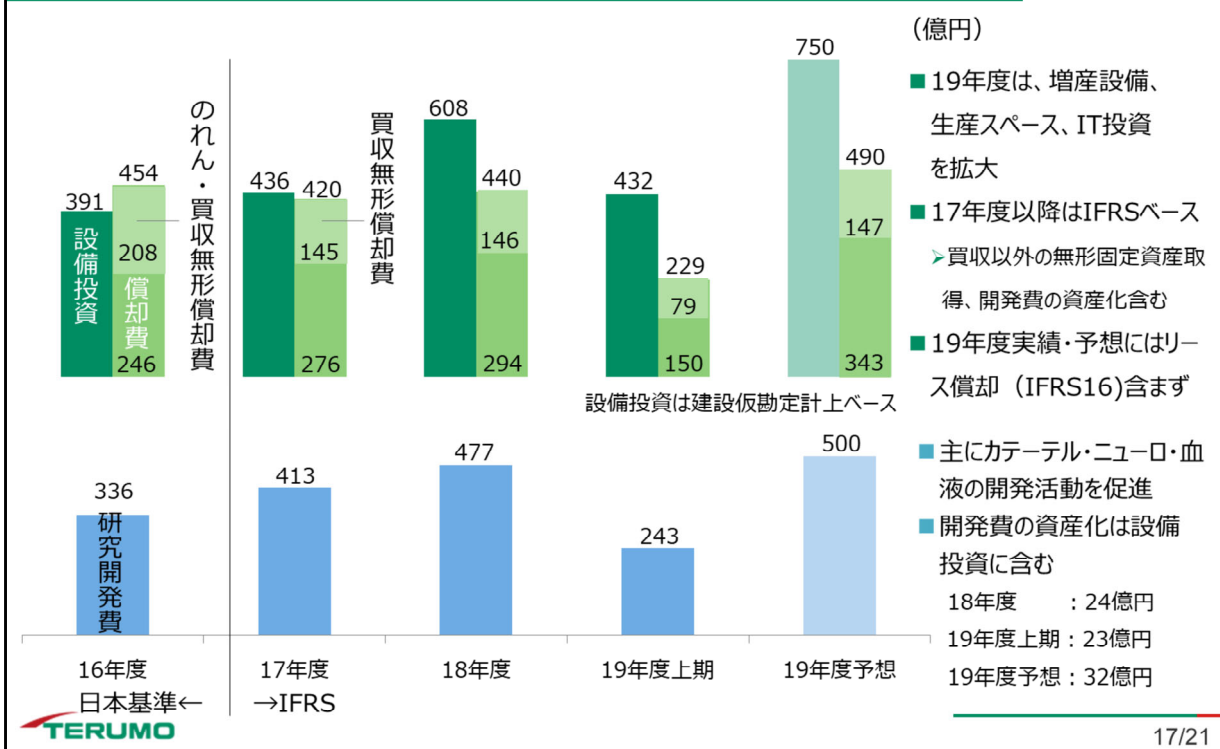
調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

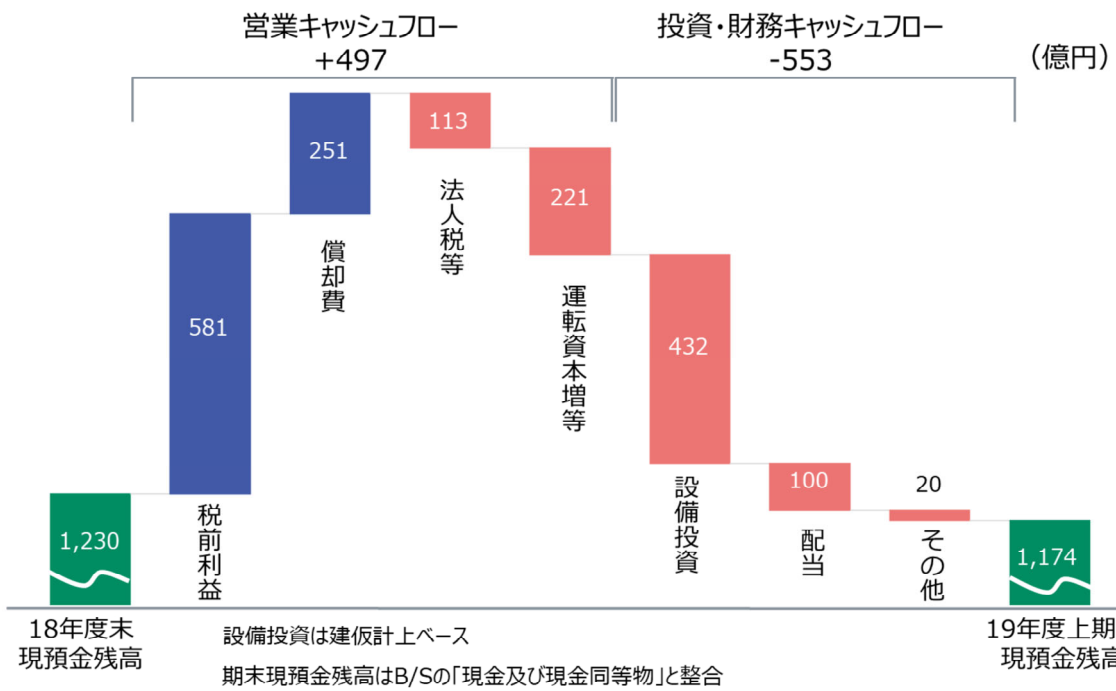
* 19年度上期 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編コスト	+9
プエルトリコ工場災害保険金受取	-12



設備投資と研究開発費



キャッシュフロー



為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	22
調整後営業利益	0	5	12

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	19	36

転換社債の状況

■ 社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
計	1,000				約52百万株

■ 転換状況 (2019年10月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	354億円 (70.9%)	18百万株 (2.4%)
合計	854億円 (85.4%)	44百万株 (5.8%)

➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

・自己株式の状況：11百万株(2019年10月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比1.5%)



おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。